



い

ろ

ど

り

日本の陶磁器

旧三好記念館コレクション蔵品展

開催日時

令和元年 12月7日(土)～12月15日(日)
10:00～16:00 休館日 月曜日

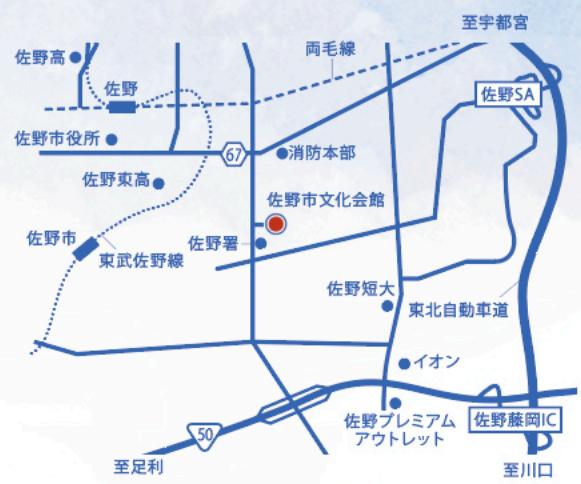
会場

佐野市文化会館 展示室B (入場無料)

主催・お問合せ

公益財団法人 三好園

〒327-0317 栃木県佐野市田沼町362
TEL 0283-62-5497 <http://www.sankouen.org/>



常滑灰釉大壺

平安後期の12世紀以降、貴族の時代から武士の時代へ世の中が大きく変化し、それに応じて焼き物も大転換し、地方の土豪や農民を対象とした甕や大壺が生産の中心になりました。荒々しい成形や無造作にかけられた釉は、焼物の美しさを一変させ、野趣が充満していて、常滑焼の時代性をよく示しています。



伊万里染付 花卉文八角壺



濃紺の染付の発色、精巧な白磁台、大振りの形、良好なロクロ技術に、輸出にける陶工の意気込みがうかがえる作品です。オランダ商人が求めてきた焼物は、日本人の趣味にあったものではなく、当時西欧貴族のあいだで全盛だった中国趣味(シノワズリー)のもので、彼らがかつて中国から買っていた緻密な文様をあらわした大作が珍重されていました。鉢や皿だけでなく、この立体的な袋物も、西欧や西アジアへ輸出しようとして焼造された典型的な作風となっています。17世紀後半に輸出用に焼造され、近年になって西欧から買い戻されたものでしょう。

伊万里色絵 松竹梅文小蓋物

この蓋物は、初期輸出時代の作品で、近年西欧から逆輸入されたものでしょう。甲盛りのある蓋物形式、三方に窓をあけた構図は、本来明朝の形や文様構成法に沿ってつくられたものです。中国原図に従いながら和様ならではの自由な気分まかせの筆行きが示されて、全体に和らいだ表情となっており、素地は純良で白く、赤・緑の絵の具も、そのために冴え冴えとしており、明るく強く、初期伊万里の魅力を存分にたえています。



伊万里色絵 菊花文角徳利



他に例をみない伊万里焼前期色絵の逸品です。

1650～1670年頃のもので、やわらかくとつぷりと施された色絵がその時代を物語っています。江戸前期に流行した手提重や花見重の携帯徳利に角瓶は多用されていましたが、重量があるため、見立てとして、茶席のお預け徳利として使用されたものでありましょう。赤を使わず、緑・黄で源氏雲や菊花を抽出するその趣向が、いかにも和様であり、新鮮です。もちろん角徳利の形式は、中国陶磁に依拠しているものです。

公益財団法人 三好園(さんこうえん)について

明治44年(1911年)当園の礎である「蓼沼慈善団」が設立され、大正8年(1919年)に財団法人三好園(さんこうえん)に改組、設立から約100年を経た平成25年(2013年)に公益財団法人として認定されました。当園の事業の軸は、先々公共の為に資すであろう有為な学生に育英資金貸与を行う育英事業です。また、この間に着手した文化事業では、1975～2008年まで附属施設の「三好記念館」で、2011年からは外部施設をお借りして収蔵品を展示公開し、右記のような実績を残しながら今日に至りました。小さな公益財団法人ではありますが、大きな志を以てこれからも育英事業を継続し、美術品をより身近に感じて頂けるよう努めて参ります。

旧三好記念館(S49～H20)



外部 展示 実績

| | | |
|-------------|-----------|-----------------|
| 佐野市 文化会館 | H24年 2月 | 伊万里 |
| | H24年 9月 | 染付の魅力 |
| | H25年 6月 | 古陶磁、にほん。 |
| | H26年 12月 | 青磁、白磁を愉しむ |
| | H27年 6月 | とっくり |
| | H28年 12月 | 陶磁器 × 生き物たち |
| 足利市立 美術館 | H29年 6月 | 日本のやきもの～2000年の旅 |
| | H30年 7月 | 粋を超えて |
| | H26年 1月 | 伊万里に魅かれて |
| | H27年 3月 | 「藍」に魅せられて |
| | H28年 3月 | 色絵いろいろ |
| | H29年 2月 | 陶磁器 × 草花たち |
| | H30年 2～3月 | 伊万里ふたび |
| | H31年 2～3月 | 中国の古陶磁 |